

TM ニュース

TM 2019.4月～8月活動報告

<4月24日(水) TMミーティング>

—スタディサポートの分析と医学部医学科入試に向けて—

3月に新2・3年生を対象に行なったスタディサポートの結果をもとに、外部講師による講演がありました。

学年ごとに分かれて分科会を行い、2019年度の入試結果、スタディサポートのデータ分析に始まり、スタディサポートの結果から今の学習状況を把握して、より一層の学力伸長につなげるという内容でした。志望校のセンターと二次試験の得点比率を頭に入れておくことや、自分の学習への取り組み方や性格を知り、どのように時間を使っていくべきかを考えることが大切であるという話もありました。



<5月14日(火) 第1回TMミーティング>

—医学部医学科を受験する—

外部講師による「医学部医学科を受験すること」をテーマの講演がありました。講演では、医師になるまでの道のりは、他の職業と比べて長いことから人生設計をしっかりする必要があるとの話から始まり、医学部入試の現状について詳細な説明がありました。現行のセンター試験で90%を目安とした高得点が要求される医学部入試に向けて、いつまでにどのくらいの学力に到達すべきか、について具体的な得点率なども資料とともに明示されました。

つぎに面接については、全国の医学部医学科のすべてで実施され、評価方法は大学により点数化、段階評価、総合判定などさまざまであること、面接で問われる内容については資料にあるが、医師は思ってもみないことに遭遇することがあることから、回答に困りそうな質問を使って対応力を見る場合もあることなどの話がありました。面接についてはTM生から集団面接についての質問があり、過去の問題を参考に模擬討論の実施を勧められました。

講演の最後に、現役合格に向けて、学校の勉強がしっかりできていることが前提であること、入試問題に難問

が少なくなったことからミスをしないことが求められるので、苦手科目を克服し、どの教科も万遍なく得点できるようにすることが大切であること、模擬試験は受けただけにならないように必ず復習をすること、などの話がありました。そして医学部に合格する人は、最後の数か月に爆発的に学力を伸ばすのではなく、コツコツと努力する人が多いので、部活などで疲れて何もやりたくない日でも、何か一つ（英単語一つでも記憶するなど）取り組み、少しずつ進歩してほしい。という言葉で講演が締めくくられました。



講演の次に、現在佐賀大学医学部医学科2年に在籍しているTM2期生のビデオメッセージの視聴がありました。弓道部、フットサル部に所属しながら学生生活を送っており、大学の勉強は思っていたよりも大変で、つらい時もあるが、医師になるために必要なものであると考えて頑張っている。皆さんもあきらめずに頑張ってください！とメッセージをいただきました。

<5月29日(水) 第2回TMミーティング>

東京女子医科大学付属成人病医学センター副所長・教授 岩崎直子氏講演

—医師を目指す後輩の皆さんへ—

本校の卒業生でもある東京女子医科大学付属成人病医学センター副所長 岩崎直子先生に「医師を目指す後輩の皆さんへ」をテーマに講演していただきました。岩崎先生は先ごろ日本女医学会吉岡彌生賞を受賞され、東京女子医科大学において診療・研究と後進の指導に忙しい毎日ですが、医師を目指す後輩のために、医師になること、医師の仕事の社会的意義、日本の現状、女性医師について、などお話しいただきました。

*自己紹介 医師になることがゴールではない

医師免許取得後も、内科認定医、総合内科専門医、臨床遺伝専門医、医学教育専門家、産業医などの資格を取得し、自分自身をブラッシュアップしている。その間、学位取得やシカゴ大学への留学、研究を続けることによって、いくつかの賞や研究奨励賞を受賞した。

*なぜ医師を目指したのか

医師である父親が、患者さんたちからの信頼を受け、地域の人々の役に立ち、感謝されている姿を見て。

*医師になってよかったこと

経済的自立、性差による差別が少ない、一生働ける可能性、そして医療において社会の役に立つことができる、の4点を挙げることができる。また、医学研究を続けることは楽しい、シカゴ大学での研究を経て、2型糖尿病の感受性遺伝子が21番染色体にあり、その領域に存在するKCNJ15遺伝子の発現を抑制することによってインスリン分泌が回復、血糖値が下がることを明らかにした。このように、それまでなぜだろうと思っていたことが分かると、大きな感動につながり、次の疑問や研究につながる。

*医師のあるべき姿

臨床能力（医学的知識）、コミュニケーション技術、倫理的・法的理解を土台に卓越性、人間性、説明責任、利他主義の実践によって、プロフェッショナルリズムを確立できるように、生涯を通じて自己研鑽を継続すること。

*最近注目した新聞記事

5月24日の全国紙に掲載された記事「診療所都市偏在を是正」。記事によると、厚労省は医師が多い地域での開業には在宅医療や休日・夜間の診療などを担うことなど、条件を厳しくして地方での開業を促す、とあった。すでに、フランスでは、医師の専門科ごとの人数、勤務地域などを国が決めており、成績によって希望が受け入れられるシステムがある。一人の医師を育成するために多額の税金が使われていることを考えれば、今後は国（厚労省）がこれまで以上に規制を設けていくのかもしれない。

*女性医師の現状

現在日本の女性医師の割合は2割程度で、OECD加盟国の中でも最下位である。しかし、近年の医学部への受験や入学者の数を考えると、この先変化が出てくるのではないかと。そして女性が医師として働き続けるためには、働き続ける意思、家族の理解、上司・職場の理解、心身の健康が必要と思う。

*私が言いたいこと

- ・大切な事は表に出てこない
- ・自分で探して初めて判る
- ・自分自身でしっかり考えることが大切
- ・自分の気持ちを大切に

*生徒の質問に答えて

研究テーマを決めるときには、独創性が問われる。その分野において、ほかの研究者がどの程度まで明らかにしているのか、自分の考え方はそれらと何が違うのか、を意識する。

総合内科専門医は知識のアップデートが必要。内科には様々なカテゴリーがあり、受験資格を得るためには定

められたカテゴリーごとのサマリーを提出することが求められる。専門医の知識の更新は、学会に出席して新たな知識を学び、専門医更新のための問題において一定以上の成績を得る。

アカデミアにおける視野を広げるために、一度は海外で学問に接し、勝負してほしい。



<6月1日（土）第3回TMミーティング>

NPO法人による「チームコンセンサス ワークショップ」が実施されました。

ファシリテーターから、今日のワークショップのキーワードとなる「チームコンセンサス」「合意形成」「最適解」の説明があり、個人検討⇒各グループで最適解を見つけるグループワークが始まりました。



検討のテーマは、「難破した船から救命ボートに乗ったときに、水と非常食のほかにある10種類の品物の必要かつ重要度の順位付けをグループで行う」で、その際大切な事は、①多数決で決めない、②安易な妥協をしない、③原則として全員一致で決定、④少数意見を大切に、と指示がありました。

グループ検討後、各グループの発表があり、最後に専門家が出した正解の発表がありました。各生徒は、正解と、自分の出した解、グループの出した解との誤差を数値化し、グループ検討の意味付けがなされました。

生徒からは、今日のワークショップについて、グループでコンセンサスを取ることを通して、少数の意見を尊重する意味、同じ選択肢でも理由が多様であること、グループとして納得のいく解に導くプロセスの大切さ、などの気付きにつながったという感想が多くありました。

そして、今日のワークショップを、今後の学校生活では演劇などの話し合いで生かしたい、受験における集団討論に活用する、社会の中でのチームワークに生かした

いとす意見がありました。また、医師になったときには、カンファレンスや患者さんとの会話において、相手の意見を尊重しながら安易な妥協をしないことを意識したいなど、将来に向けた感想もありました。

<6月15日(土)第4回TMミーティング>

ー医学部医学科を知るー

6月15日(土)のTMミーティングでは、東京医科歯科大学・自治医科大学・東京女子医科大学より入試広報担当の先生方をお招きし、医学部医学科を知るためのミーティングを行いました。各大学の先生から、大学の特色や卒業後の進路先の多様性、医学部受験にあたっての留意事項などの話があり、生徒達も積極的に質問を行い、情報の深化と共有を図りました。



医師になる人に求められるものは、他人のために尽くせる心、生涯研鑽する姿勢、忍耐強く頑張れること、という話があり、医師は生涯現役で、一生勉強であることを再確認しました。生徒の質問にもあった入試に関しては、過去問にヒントありと助言を受けました。また、地域医療についての具体的な話もありました。

<7月13日(土)第5回TMミーティング>

ー夏の過ごし方～第一志望はゆずれないー

外部講師による「夏の過ごし方」をテーマの講演がありました。講演では、まず最新入試情報として、近年の医学部受験状況、駿台模試結果に基づいた今年度現時点の動向、模試の活用の説明がありました。後半は、合格に向けた夏の過ごし方についてのアドバイスを受けました。ポイントを列挙すると以下ようになります。

- ・生活面では、規則正しい生活リズム、目標勉強時間1日15時間、ライバルの存在
- ・学習面では、上手な計画(自己の能力の120%の計画⇒結果80%できれば上出来)と調整日の設定
- ・RG-PDCAの活用
- ・スマホや携帯の勉強以外の利用時間が、30分を超えているなら×
- ・受験勉強の成果はすぐには出ない、とくに現役生は試験当日まで伸びる。一度目標を下げると上がることは、ないのだから、高い目標を持ち続けること

最後に、「現役時に全力を出さなかった」「挨拶ができない」など、浪人をして伸びない生徒の生徒10の傾向の話がありました。これから夏季休業を迎える3年生にとって、講演の内容は大いに参考になるものでした。



<TM夏の体験研修 7.13~8.21>

7月13日(土) 国立精神・神経医療研究センター

午後1時から「認知症の克服を目指してー良い眠りを通じたアプローチ」をテーマとした講演があり、その後グループに分かれて、下記の研究部のいくつかをめぐるラボツアーが実施されました。

- ・共焦点顕微鏡で覗くミクロな世界
- ・音に対するびっくり反応で脳の情報処理をみてみよう
- ・聞こえない超高周波音が脳を快適にするハイパーソニック
- ・3Dで見る脳の中と神経回路
- ・iPS細胞を用いた筋ジストロフィーの治療研究
- ・君はトップアスリートになれるか?
- ・意識はどこにあるのか。脳の中を観察してみよう。
- ・脳が眠りに落ちる時～脳波で測る眠気評価テスト
- ・脳機能を光トポグラフィーで見てみよう

7月24日(水) 国立国際医療研究センター

午前中に、満屋裕明所長、大河内仁志先生による2つの講演と各研究部ポスター見学がありました。午後の医学研究体験は、下記の14のプロジェクトの中から2つの研究室での研究体験を行いました。例えば、感染症制御研究部のプログラムは、大腸菌と黄色ブドウ球菌の染色、マウスの精子の凍結保存、遺伝子改変マウス作製に必要なマイクロインジェクション法の体験です。

- ・細胞組織再生医学研究部
- ・難治性疾患研究部
- ・感染症制御研究部
- ・熱帯医学マラリア研究部
- ・難治性ウイルス感染症研究部
- ・生体恒常性プロジェクト
- ・遺伝子診断治療開発研究部
- ・代謝疾患研究部
- ・臓器障害研究部
- ・分子炎症制御プロジェクト
- ・資質シグナリングプロジェクト
- ・分子代謝制御研究部
- ・膵島移植プロジェクト
- ・分子糖尿病医学研究部

7月30日(火) 都立大塚病院

午後1時半から病院の概要説明、周産期関係・手術室関係・画像(超音波、放射線等)の各部門体験、医師による話・意見交換会が行われました。意見交換会では、本校OBの太刀川医長も出席され、院長による進行で有意義な時間となりました。

「画像診断の説明」



「手術着を衛生的に身につけるには」

8月1日(木) 東京都医学総合研究所

午後2時から「生命科学の将来に向けた歩み：やりがいのある仕事って？」をテーマとした講演会があり、その後コースに分かれて研究室見学が実施されました。

A コース／分子医療プロジェクト
運動障害プロジェクト

B コース／再生医療プロジェクト
糖尿病性神経障害プロジェクト

C コース／感染制御プロジェクト
細胞膜研究室

D コース／哺乳類遺伝プロジェクト
カルパインプロジェクト

8月5日(月) 自治医科大学



午前10時から模擬授業、在学生との懇談、学生食堂における昼食をはさみ、シミュレーターを使用した体験学習、大学全体の見学、医学部教育・研究棟の見学がありました。

「聴診器の体験」



「気管支挿管体験」

「採血シミュレーション体験」

8月6日(火) 都立広尾病院

午後1時から病院の概要説明、病院内見学、超音波エコー体験、医師との意見交換会が実施されました。

見学では、屋上ヘリポートとその役割の説明があり、また意見交換会では、急性期医療などに目を奪われがちであるが、公衆衛生という医療の役割を考えたとき、社会問題への視点を持ち、社会全体を良くすることへの貢献をしてほしいとの話がありました。



「研修医による説明」



「ヘリポートの見学」



「超音波エコーの体験」

「ベテラン医師、研修医を交えた意見交換会」



8月21日(水) 都立駒込病院

午後1時から病院概要の説明、感染症科見学、放射線診療科治療部見学、放射線診療科診断部見学、先輩医師との懇談がありました。第一種感染症指定病院である駒込病院は、各種の感染症医療に対応しており、今回の体験においても感染症病棟の専用施設において、防護服着脱の体験がありました。また、当日は高精度放射線治療装置による国内初の治療が行われた、という説明を受け、当病院にあるサイバーナイフ、トモセラピー、Vero 4DRTなどの機器の見学もありました。



「防護服着脱体験」



「サイバーナイフの見学」

8月21日(水) 東京医科歯科大学

午前中は、スキルスラボ見学と実習、午後は東京医科歯科大学の紹介、研究室訪問、高等学校出身者との対話、レポート作成がありました。研究室訪問では疾患多様性遺伝、幹細胞制御、免疫アレルギー学、物質医工学、分子遺伝の5グループに分かれて体験研修を行いました。

「耳の中や眼を診察する」



「内視鏡による操作の体験」



「画像を見ながら手術をシュミレーション」



今後の予定

- 9月14日(土)第6回TMミーティング 1・2年生対象
夏の体験報告書未提出者は作成・提出を！
- 9月22日(日)1, 2年生対象スタディーサポート
8:30 集合 1.2年生は全員受験です。
- 10月3日(木)or4日(金) 課題学習調査ゼミ内発表会
調査報告書未提出者は至急 Classi コンテンツボックスへアップしてください。
- 10月26日(土)第7回TMミーティング1・2年生対象
10月下旬～11月上旬 個別面談実施予定
- 11月22日(金)第8回TMミーティング 全学年対象
都医研の研究者と若手医師 2名による講演会 TM生以外にも公開
- 12月10日(火)第9回TMミーティング 3年生医学部
受験者対象1, 2年生TM生以外にも公開
駿台市谷校舎長による「冬の過ごし方」